

小学校第6学年社会科学学習指導案

令和 年 月 日 () 第 校時
6年 組 人
〇〇市町村立〇〇小学校
指導者 教諭 〇〇〇〇〇

1 単元名 (新しい社会 歴史 東京書籍)

今に伝わる室町文化

2 単元の目標

- (1) 今日の生活や文化に直結する要素をもつ室町文化が武士や民衆の中から生まれ、今も多くの人々に親しまれていることを理解することができる。 【知識及び技能】
- (2) 京都の室町に幕府が置かれた頃の代表的な建造物や絵画、芸能などの文化の特色を考え、適切に表現することができる。 【思考力, 判断力, 表現力等】
- (3) 室町文化を生み出してきた人々の思いに共感するとともに, 今日の自分たちの生活に置き換えて考えることができる。 【学びに向かう力, 人間性等】

3 単元の指導計画

※ 3時間単元に, 1時間追加した指導計画とする。

小単元名	時	学習目標	主な学習活動
足利義政が建てた銀閣	1	銀閣と金閣を比較しながら話し合い, 学習問題を設定しましょう。 学習問題 室町文化はどのように生み出されたのだろうか。	○ 金閣と銀閣について比較しながら調べ, 現在とのつながりに気付くことができるようにするとともに, 学習問題を設定する。
新しい文化が生まれる	1	室町時代の文化には, どのような特色があるのでしょうか。	○ 室町時代に広まった食習慣や芸能, 建築などについて調べ, それらは今も受け継がれ, 親しまれていることを捉える。
室町文化を支えた人々 (本時)	1	室町時代の人々は, なぜ庭師たちを差別したのだろうか。	○ 当時の人々がなぜ差別したのかを考え, 自分や学級に同じような差別意識や構造がないか話し合うことで, 厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考える。
室町文化と現在のつながり	1	室町文化について調べたり, 考えたりしたことを整理し, まとめましょう。	○ 室町文化を生み出してきた人々の背景に迫りながら, 自分の生活と比較しながら調べたり, 考えたりしたことを自分なりの方法でまとめる。

4 授業づくりに当たって

室町時代に生まれた文化は, それまでの時代には見られなかった新しい文化が広がり, 民衆に浸透して現在まで受け継がれてきたことを確認する。龍安寺の石庭について, 教科書に記載されている「庭造りでは, 身分の上で差別されてきた人たちが活やくしました。」という一文に触れることで, 身分の上で差別されたとはどういうことだろうかという関心を高める。また, 当時の人々の忌避意識や自然現象に対する見方・考え方について資料を活用して調べることで, なぜ人々が庭師たちを差別したのかについて考えを深めることができるようにする。これらの学びが, 江戸時代以降の部落差別に関する学習の土台となっていく。

さらに, 差別されてきた人々が, どのような思いで生きていたのか, 資料を通して迫り, 自分に置き換えて考えることができるようにする。差別の不合理さや, 差別される側の思いや願い, 差別する側の思いにも想像を膨らませ, 差別をする側の問題として理解できるようにする。

5 小学校学習指導要領解説社会編の位置付け

第3章 各学年の目標及び内容

2 第6学年の内容

(内容の取扱い)

(2) 我が国の歴史上の主な事象について、学習の問題を追究・解決する活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、我が国の歴史上の主な事象を捉え、我が国の歴史の展開を考えるとともに、歴史を学ぶ意味を考え、表現すること。

歴史を学ぶ意味を考えると、歴史学習の全体を通して、歴史から何が学べるか、歴史をなぜ学ぶのかなど歴史を学ぶ目的や大切さなどについて考えることである。例えば、我が国の伝統や文化は長い歴史の中で育まれてきたことを踏まえ、過去の出来事は現代とどのような関わりをもっているかなど過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えることである。

その際、今日の自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることや、遠い祖先の生活が自分たちの生活と深く関わっていることなどを理解できるようにし、自分たちもこれからの歴史の担い手となることや、平和で民主的な国家及び社会を築き上げることについて、考えを深めるようにすることが大切である。

ここ（この単元）では、社会的事象の見方・考え方を働かせ、例えば、誰がつくった建造物か、誰が描いた絵画か、この頃の文化にはどのような特色があるか、今に受け継がれているものにどのようなものがあるかなど問いを設けて、金閣や銀閣などの建造物や水墨画などの絵画や今に受け継がれる文化について調べ、これらの事象を関連付けたり総合したりして、この頃の文化の特色を考え、文章で記述したり説明したりすることが考えられる。

6 学びの視点

【令和5年度版人権教育研修資料「なくそう差別 築こう明るい社会」(P.12~13)から】

視点① 人々の生活を支え、文化の創造・継承に努めてきたことに気付く。

視点② 厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考える。

視点③ 厳しく差別されてきた身分の人々が不合理な差別の中をどのような思いで生きてきたかを理解する。

※ 学びの視点については、一つの視点を重点的に扱う方法や、教育課程の時間配分によっては複数の視点で授業を構成する方法等、児童の実態等に応じて工夫する。

7 本時

(1) 目標

ア 室町時代の人々は、死への恐れや自然に対する畏敬の念から、特定の仕事をしていた人々を必要としながらも差別してきたことを理解する。 【知識及び技能】

イ 当時の人々が、なぜ差別をしたのかを調べたり、差別された人々はどのような思いで生きていたのかを考えたりすることができる。 【思考力、判断力、表現力】

ウ 厳しい差別の中、工夫と努力を重ね続けて優れた文化を築き上げた人々の生き様に自分を重ね、これからの生き方に生かそうとすることができる。 【学びに向かう力、人間性等】

広 げ る	<p>7 学習問題のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>室町時代の人々は、庭師たちを自分たちとはちがう人間だと思い込み、差別した。</p> </div>	<p>5</p> <p>◆ 庭師や能楽師たちは、差別に負けずに工夫と努力を重ねて優れた技術を身に付け、素晴らしい文化を生み出したことに気付くことができるようにする。</p> <p>◆ 銀閣の庭園は、室町幕府8代将軍足利義政に重用された庭師の善阿弥とその子孫による作品と言われている。当時の人々の中にも、身分ではなく技術をもって付き合いおうとした人がいたこと、そのような人の存在が文化を生み出し、残すことにつながったことを伝える。</p>
	<p>8 本時の学習を振り返り、自分の生活と重ねて感じたこと（感想等）を交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 差別に負けずに素晴らしい文化を生み出すなんてすごいと思う。 ・ わたしも人をさけたことがあった。 ・ ゴミ収集車やバキュームカーを見て「汚い、くさい」と言ったことがあった。 ・ わたしも、友達にさけられたことがあったけど、これからは、いやなことがあっても自分の気持ちを信じて、強い心でがんばりたい。 	<p>5</p> <p>〔視点③〕</p> <p>○ 資料を提示することで、庭師や能楽師たちは、自分の技術を高めるために、厳しい差別に負けず工夫と努力を重ね続けたことに気付くことができるようにする。</p> <p>◆ 差別はする側の都合で起きることを抑える。</p> <p>◆ 何か理由を付けて（自分の都合を正当化して）人を排除・差別することはないか、自分たちの生活と重ねて感想を書くようにする。</p> <p>◆ どうしたら差別（排除やいじめも含む）を無くしていけるのかを投げかけ事後の指導につなぐこともできる。また、議論する時間を設定してもよい。</p>

参考：令和2年度部落問題学習指導案・資料集(伊佐地区人権・同和教育研究協議会)

8 授業づくりのポイントと留意点

「部落問題学習で何を学ぶのか」という問いは、「なぜ部落の歴史を学ぶのか」という問いの答えと重なる部分が多い。前述の6で説明したように、歴史を学ぶ目的の一つに、小学校学習指導要領解説社会編では、「歴史を学ぶことで、過去の出来事と今日の自分たちの生活や社会との関連や、歴史から学んだことをどのように生かしていくかなど国家及び社会の発展を考えること」とある。「部落問題学習」の学びの視点を基に、部落問題学習のポイントについて、いくつか解説を加えたい。全ての内容を小学校段階で学習するものではなく、小・中学校の歴史学習を通して、系統的に行われる内容もあれば、繰り返し行われる内容のものもある。

本時の学習内容を、江戸時代（身分制、解体新書、渋染一揆）、明治時代（解放令、水平社の創立）へとつないでいくことが大切である。また、中学校で学習する際は、小学校での学びの実態等を十分考慮しながら、授業づくりに生かすこと必要である。いずれにしても、本時の学習内容が、部落問題学習だけでなく、全ての人権課題について学ぶ際の土台となる学習内容を含んでいることを確認したうえで、授業に取り組むことが大切である。

【視点① 人々の生活を支え、文化の創造・継承に努めてきたことに気付く。】

部落問題学習は、「差別された歴史」を学ぶ学習ではない。様々な時代において、被差別の人々がどのように生きてきたのかを知る学習である。歴史学習の中で、現在自分が生きている時代とは異なった時代、あるいは異なった地域で生きた多様な人々と出会い、その生き方について想像を膨らませる

ことが、現在にもつながる他者への想像力につながっていく。また、他者の生き方と自分の生き方を比較するなど、自分自身を相対化することにもつながる。

【視点② 厳しく差別されてきた身分の人々への差別の不合理さについて考える。】

被差別身分は、江戸時代に身分制として突然現れたものではない。本授業のように、中世の社会の中では固定化されていなかった存在が、身分制によって被差別身分として住む場所や職業等固定化されていく。なぜ、差別や排除が存在したのか、想像力を働かせながら考えていくことは、部落差別についてはもちろんのこと、その他の人権課題、さらには教室で起きる様々な問題や学級の課題についても重ねて考えることができ、差別をなくす人権感覚を育て、豊かな生き方につなげることができる。

特に中学校では、過去の日本社会を分析し、中世以降、いずれの時代にも、差別を合理化し、差別を温存してきた社会的条件を明らかにすることもできる。差別とは何なのか、差別のない社会はどのような社会であり、どのような社会的条件が必要なのかを学習の中で考えていきたい。小学校でも、例えば、いじめやからかいなどがなくなるのはなぜか、どうしたらなくなるかなどを議論し、どのような学級をつくっていききたいかを考えるきっかけにもなる。

差別のない社会をつくっていくためには、差別の現実や歴史的事実に触れながら、その問題点に気付くことから始まる。

【視点③ 厳しく差別されてきた身分の人々が不合理な差別の中をどのような思いで生きてきたかを理解する。】

視点①で、「差別された歴史ではなく、どのように生きてきたのかを知る学習」であるとことを伝えしたが、厳しい差別の中に置かれ、歴史に翻弄されながらも力強く生き、立ち上がる姿は、私たちに生き抜く力を与えてくれるものになる。特に、厳しい状況に置かれている児童生徒については、これらの学習が生きる上でのヒントになる場合がある。

また、本授業において、足利義政に重用された部分を扱うのは、当時、「差別を受けてきた」という事実や身分などではなく、その人の技術そのものを認め、付き合いおうとした人がいたことを知るためである。これらの事実を知り、自分の生き方につなげたり、さらに学び続けたりすること、差別解消に自分ができることを考え、日頃の行動に移していくことである。普段の生活の中で身近な差別に気付いたり、差別を見逃さなかったりすることが、部落差別の解消につながっていくということも大事にしていきたい。